

第 21 回 東日本大震災支援全国ネットワーク 世話団体会 議事録

1. 開催年月日： 2013 年 4 月 9 日（火）
2. 開催場所： 日本 NPO センター 会議室
3. 出席者： 総数 8 名（事務局を除く）

◇ 出席代表世話人（3 名）

栗田暢之 NPO 法人 レスキューストックヤード
田尻佳史 認定 NPO 法人 日本 NPO センター
山崎美貴子 「広がれボランティアの輪」連絡会議

◇ 出席世話団体（5 名）

池本修悟 NPO 法人 NPO 事業サポートセンター
田島誠 認定 NPO 法人 国際協力 NGO センター
松原明 NPO 法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
尾崎靖宏 日本生活協同組合連合会
青柳光昌 公益財団法人 日本財団

◆ 欠席世話団体（5 団体）

社会福祉法人 中央共同募金会
東京災害ボランティアネットワーク
公益社団法人 日本青年会議所
日本赤十字社
公益財団法人 日本 YMCA 同盟

4. 議事

【議題 1】 報告事項

東北応援ビレッジについて

周年事業として東北応援ビレッジを 330 に実施した。報告書を作成して、ご協力いただいた方々、企業、世話団体などにお渡しする。出展者の売上集計、出展者の感想なども報告書に盛り込むことにしている。

企業からのボランティア協力の数が予想以上の多かった。中には現地のボランティア活動に参加したいという方もいた。企業もなにかやりたいという気持ちがあると感じた。当初、ボランティアバス参加者の同窓会というイメージで企画を練り始めたが、現地に行けなかった人たちが関わるよい機会になったと思う。出展者と企業ボランティアの交流は意義があったと思う。あれだけの人数であれば、企業ボランティアの役割をもう少し準備しておいてもよかったのかもしれない。

東北には行っていないが、出展をサポートすることで現地の方と話げできたのはよかったという声もあった。風化防止というより、被災地ではないところと被災地の交流の場づくりは必要と感じる。あまりありそうでない場だったように思う。

来場者も多く、売上総額も 200 万円。地のもののほかに文化的なものなど、製品のクオリティが高かったように思う。売れる場所でいろんな出会いがあったことはよかった。

フォトジャーナリストの話はとても力のある印象的。ゆるキャラの着ぐるみも子どもたちなどが集まっていた。もっと広い会場だとよかったのかもしれない。通行人への呼びかけ、出演者の垂れ幕など、なにをやっているのかの情報提供はもう少し工夫が必要と感じた。

【議題 2】 検討事項

事項 1. 被災地支援活動計画について

(事務局 A) :

今年度の活動計画案のドラフトをお配りする。ここでご意見を頂戴し、修正版に反映させたい。

(出席者 B) :

現地会議の価値をどうやって高めるのか、目標・テーマを考えたほうがよい。年度当初にある程度のテーマを決めてはどうか。声をかける人、準備など違った動きが出てくるように思う。

(出席者 C) :

行政、社協、企業など漠然と書いているが、何名くらい来ていただくのか明記

したほうがよいと思う。具体的な人数・目標設定をしてはどうか。行政と政府の情報交換の場、もう少しルールを決めて、お互いにどうするのか持ち寄る場をつくったほうがよい。意識的に強めることで、課題の掘り起こしが出てくるように思う。

(出席者 D) :

被災地外での「現地会議」というのがしっくりこない。

(出席者 E) :

問題意識は納得できるので、どうしたらよいのかももう少し反映させてはどうか。活動計画の目的をはっきりさせてはどうか。達成するために〇〇をしますというのが明確なほうがよいと思う。

(出席者 F) :

被災地の課題を解決に向けて、本当に取り組むのか？が問われていると思う。個々の地域の課題や活動していくための課題に向き合っているのはわかるが、解決に向けた方策に知恵をしぼるべきではないか。

(出席者 G) :

フェーズが変わってきていることを、もっと明確に説明したほうがよい。みなし仮設など内陸避難者のことなども意識的にやっていかないとバランス的に悪いように思う。

(出席者 H) :

参加団体、数が多ければよいのか。団体の活動分野が変わってきている中、こういった活動をしているのか、どうして退会したのか、新しい団体はどういう団体なのかなどの分析があったほうがよい。

(出席者 I) :

現地会議と広域避難者支援ミーティングがだぶって見える。例えば、専門家集団との接点の場を設けるなど、具体的なことを書き込んだほうがよいと思う。

(出席者 J) :

被災地支援と広域避難者支援との関係性も整理すべき。

事項 2. 広域避難者支援活動計画について

(事務局 C) :

行政との関係性だが、すでに決まっていることを共有するだけになっている。一緒に考えるという関係がつかれないでいる。どういったところとやりとりするのか明確にできないでいる。

(出席者 G) :

避難者・当事者グループが参加しているので、課題や考えが語られている。双葉 8 町村からの避難者、自治体のことを知りたい。自治体に来てもらうなど避難者の現地の情報が伝えられる機会を考えたほうがよいと思う。

事項 3. NPO 政策連絡会議について

(出席者 D) :

政党、政府に対する提言活動を行うための、連絡組織（NPO 政策連絡会議）を立ちあげる。復興支援分野に関する意見交換を行う予定（4 月中～下旬）。呼びかけ人に代表世話人の誰かが個人名で入ってもらいたい。団体として登録してほしい。事務的に粛々と進めていきたい。回答は明後日までにお願いしたい。

5. その他

次回の世話団体会は、総会后とし、後日事務局が調整する。